

NIE

教育に新聞を

読解力・文章力・表現力

可能性は無限大

県NIE推進協議会会長

栗原

幸正さん



先口乗った両毛線の車内で、新聞を熱心に読む方の姿を本当に久しぶりに見かけたのである。これは珍しいと思っただけ、それから意識して乗客の方々を見ると、文庫本を読んでおられたり、外の景色をご覧になったりと、一時期の「スマホ・タブレット電車内全員注視大会」という印象ではなくなっていたのである。

車内の人々がそれぞれに思いの過ごし方を取り戻し始めている一と感じたのは言うまでもないことである。ではいったい、何が起きているのであろうか？

そこで、周囲の変化に敏感な学生たちにスマホ事情を問うてみると、これまで通りラインなどのコミュニケーションツールとしてのスマホは健在であるが、情報ソースとしてのスマホの扱い方は、少々様変わりしてきているようである。それは学生の言葉を借りて一言でいうと「ニュース

新聞とICTで学びの交流

情報への関心取り戻そう

「がつまらない」のだという。ニュース自体の意味がないというのではなく、収入目当ての興味を引くキャッチコピーのニュースが多く、その中には読んでみて何も書かれていないに等しいものが多い。その上、毎日掲載される量が膨大であるため、学生たちは「飽きてし

ち情報への感覚が鈍くなり、情報自体をつまらなく感じ始めている社会が目の前に迫っているのである。情報の量と質を再構築して、情報に対する若者たちの興味関心を復活させる取り組みが必須と言えよう。

そのような中、12月4日に開催された日本NIE学会の第19回大会において、新たなNIE教育の息吹を感じることができた。それは「探求の時間」を利用して、徒たちが学び合い、その成果を研究者が集まる「学会」と同じである。テーマも目的も明確でない情報が、た

また「というのが実態のようである。つまり、七夕のお飾りや神社の絵馬にかかれた他者の願い事をたまに見るのは楽しいが、毎日読んでいると必ず飽きがやってくるのと同じである。テーマも目的も明確でない情報が、た

会第19回大会において、新たなNIE教育の息吹を感じることができた。それは「探求の時間」を利用して、徒たちが学び合い、その成果を研究者が集まる「学会」と同じである。テーマも目的も明確でない情報が、た

各校が練り広げ、ICT環境とNIE教育がタッグを組んで実践内容を高め合うという新たな挑戦が、若者がニュースに興味関心を失いつつある現在に、新たな風をもたらすことを大いに期待する次第である。

(高崎健康福祉大教授)

投稿

チャレンジ

U22

沖縄の海が教えてくれたこと

板垣 美咲 (伊勢崎市・18)

小学4年生の時に沖縄へ行くサンゴの石灰化機能の

「この報告もある。やはり、サンゴ礁がなくなってしまうと水が濁り、白いビーチもなくなってしまう。あの美しい沖縄の海もなくなってしまうのだ。」

私は、改めて環境破壊の深刻さを感じると同時に

まず相手の気持ちになって

外山 心愛 (川場村・14)

「チャレンジウィークで介護老人保健施設に行きました。事業所と事前打ち合わせの時には、必要

「切さ」です。例えば、話しかける時は耳元で聞こえやすいように配慮することです。

私は積極的に話しかけることは苦手ですが、コミュニケーション力はどんなことにも必要な

工夫

このは「ト(12月で、夏は冬は例年と私節電や暖房思い浮かにはけ思いまも節電ました。ればいさはどつと我いのかいます。コン

私はな期き